

受講番号 18029 学校名 高知小津高等学校 氏名 松岡 宏明

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年 7ホーム 生徒数 19 名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 4 時間 使用教科書名 ONE WORLD English Course

クラスの様子・特徴

成績面では学年の上位層から下位層にかけて幅広く分布している。英語においても1年次から上位層と下位層がはっきりと別れており、2年次からは英語とWritingの授業を習熟度別(発展クラス・基礎クラス)にした。

問題の確定

語彙力の低さや英文を読み進めていく体系的なものに慣れてなく、英語に対して不得意感を抱いている。

予備調査

A 授業の観察

授業に対する取り組みは熱心で懸命に励んでいるように見受けられる。また、内容理解シートの問題設定を変更してからは、以前ほど容易に解答できていない。中には始めから意欲をもていない生徒も若干名いる。

B 生徒による授業評価

授業内容(読解)をある程度理解できている生徒は少ない(19名中2名)。また、意欲的に取り組んでいるとする生徒も少ない(19名中2名)。授業は集中して取り組んでいるが、予習・復習ができていない生徒は3名と少ない。

C 学力データ

校内実力テストでは、英語の成績は7クラス中4番目(第1回)・6番目(第2回)となっており、このクラスには英語を不得意に感じている生徒が多いようである。テストの内容は特別難しいものではなく、基礎的な問題を中心にしていった。

リサーチ・クエスト

基礎力(語彙力)を身につけ、英文を読み進めていくことに慣れてくれば、自ら英文を読んで理解することができるようになり、また、英語の楽しさや理解する喜びを感じるようになる。

仮説・実践・検証

仮説1

ハンガマンなどのミニゲームを用いることにより、積極的に授業に参加する態度や意欲をもたせられ、また同時に、語句を正確に把握しようとする意識を高められるのではないかと。

実践1

授業の始めに、黒板を使用して既習の語句についてミニゲームを行った(進出語句を中心に3題程度出題)。この活動は当然ゲーム感覚で楽しみつつ、英単語を意識させることを目的とし、更に授業に積極的に参加する態度をもたせる。

検証1

初期の頃は座席順に指名して答えさせていたが、次第に生徒の方から自主的に答える者が増えてきた。他にも、どんな語句なのか推測しようと教科書や単語シートを広げて隣同士で相談する姿も見受けられてきた。

仮説2

単語シート・フレーズシートを用いて、音読の他に内容理解へのアプローチも期待できるのではないかと。

実践2

1レッスンの各セクションを1時限で終わらせることを目標としていた。まずは単語シートを用いて、発音と意味の確認を音読を通して行った。本文中の語句を含めると各セクションに15語程度あるものを最低3～4回は通して音読を行った。次にフレーズシートを用いて少なくとも3回は通して読むことを目標にした。

検証2

習熟別にしたことで少人数であり、また英語ゼミ室という小規模な教室で授業を行えることから、当初から比較的生徒の声が出ていた。それを活かして音読を中心に授業を進めることにしたことはよい点だと思われる。フレーズシートの音読が終わる頃には、まっさらの状態では授業を受ける生徒達が、語句や本文をある程度覚えるまでになっており正直驚きがあった。

仮説3

語彙の正確な把握とフレーズリーディングを通して、英文の概略を理解することにより、苦手意識を和らげると同時に達成感を味わい、自ら意欲的に取り組む姿勢を培うことができるのではないかと。

実践3

フレーズリーディング終了後に適宜投げかけで生徒に質問をすることにより把握状態を確認した。特別にハンドアウトを用意していないので、生徒の把握状態を正確に確認できているかは疑問が残る。この段階では、質問に対して正確な答えは必要とせず、大まかなことが答えられたら正解とし、大袈裟にでも褒めて自信をつけさせることに徹する。

検証3

現在は、この段階でハンドアウトを用意していないので大ざっぱな確認しかできていない。しかし、こちらからの質問に対してはフレーズシートを見ずに彼らの記憶の中から自分の言葉で伝えようとする姿勢が見られてきた。また、当然何人かの生徒はフレーズシートを見ないと答えられない者もあり、生徒によつての温度差があるのも事実である。

研究の成果

(夏休みのこの研修会で、音読によるアプローチを試みている方がいらしたので、自分も授業の中でより音読を意識するようになった)今回の対象クラスが、特に英語を不得意に感じている生徒が多いクラスであり、まずは英語に対する意識を変えることを目的にした。習熟度でクラスを別けられていたことや、夏休みの研修会の経験もあり内容を多少変えつつも本来の目標に少しは近づいたように感じられる。しかし、その授業での経験(記憶)が長続きしないことが多々あるのも事実である。

今後の授業改善の課題

今回は苦手意識があり英語を敬遠しようとする生徒に、英語に対して目を向けてもらうことが中心であったが、この計画で語彙力が伸びて積極的に参加する態度が増えてきた。これからは、その様な生徒が更に内容(英文)を深く追求するための授業に方向性を転換させていくが必要になると思われる。しかし、逆に当初の頃と変化があまりない生徒がいるのも事実であり、彼らに対してはまた違ったアプローチが必要である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-822-5270

電子メール

hiroaki_matsuoka@kt4.kochinet.ed.jp